

【行政評価(事務ふりかえり)結果一覧表の見方】

基本目標(章)	主要施策(節)	所管課	事務事業コード	事務事業の名称	構成する細事業の名称	投入コスト(千円) ※下段(会計年度任用職員人件費を再掲)				職員 人工数	成果								令和4年度最終評価		
						R1決算	R2決算	R3決算	R4予算		成果指標(単位)	R1目標	R1実績	R2目標	R2実績	R3目標	R3実績	R4目標	今後の方向性	今後の方向性に対する判断理由及び見直し・改善の具体的内容	評価責任者(課長)の所見
				事業期間																	
①自然と暮らしを守るふさとづくり	(1)自然環境の保全	環境整備課	112-1	河川環境保全啓発事業	廃油石けんの普及事業、EM活性液・ぼかしの普及事業、河川水援隊事業、川の水生生物調査業務、天水石けん加工施設維持管理事業、生活排水汚濁水路浄化施設維持管理業務、河川環境通報等処理業務	1,975	2,084	2,127	2,558	0.20	河川環境保全啓発活動参加者数(人)	(500)	521	(500)	434	(500)	411	(500)	現状のまま継続	河川の主な汚濁源は生活排水であり、市民団体による廃油石けんづくりや河川水援隊による定期的な監視など河川の汚濁防止・浄化につながる啓発活動を通して、引き続き市民への河川環境保全意識の高揚を図っていく。また、令和8年度を目途に行う天水石けん加工施設の他施設との集約化も引き続き検討していく。	美しく豊かな河川を次世代に引き継ぐため、河川水援隊による河川監視や市民団体による浄化活動を支援する必要がある。また、地域の自然の豊かさを発見し継承する意識を芽生えさせるため、次世代を担う子供たちを対象にした川の生き物調査は継続が必要である。
				H17年度～		(0)	(0)	(0)	(0)												

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪

- ① 事務事業が市の総合計画の基本目標(章)のどこに位置付けられているかを表しています。
- ② 事務事業が市の総合計画の主要施策(節)のどこに位置付けられているかを表しています。
- ③ 事務事業を所管し、実施している部署です。
- ④ 事務事業コードを記載しています。
- ⑤ 上段が事務事業の名称、下段が事務事業を実施する期間です。
- ⑥ 事務事業を構成する細事業(予算事業を構成する最小単位の事業や業務)です。
- ⑦ 上段が事務事業の実施に要した過去3年度の決算額と本年度の予算額です。下段には、上段の額のうち、会計年度任用職員の人件費を再掲しています。
- ⑧ 事務事業の実施に要した正職員の人工数です。人工数とは、事務事業の実施に要した労働量のことで、1人が1年間勤務した労働量を「1.00」に設定しています。例えば、3人の職員が1年を通じてその事務事業だけに従事した場合は「3.00」になり、1人の職員が1年間の業務のうち半分をその事務事業に従事した場合は「0.50」になります。
- ⑨ 事務事業を実施した結果、どのような影響、成果がどれだけあったかを指標を設定して記載しています。過去3年度の目標値と実績値、本年度の目標値を記載しています。
- ⑩ 今後の方向性とその判断理由、見直し・改善の具体的内容を記載しています。
- ⑪ 評価責任者(事務事業を所管し、実施している部署の長)の所見を記載しています。今後の方向性、今後の方向性に対する判断理由及び見直し・改善の具体的内容に対する評価責任者の所見となります。